令和７年度　東京都立久留米西高等学校　全日制課程　学校経営報告

校長　福原　利信

教育目標「すすんで学び　すこやかで　思いやりのある人をつくろう」と本校に与えられた、スクールミッション実現のために、グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを定め学校経営を行っている。

１　中期的目標に「多様な進路希望を実現するために、社会人として必要な力と、生活習慣が身に付けられるよう、一人一人に寄り添った学校づくり」を掲げ、以下の４点を目標と定めた。

１ 物事の本質を考え、考え抜く力を育てる。（課題発見力・思考力）　シンキング【Thinking】
２ 一歩前に踏み出し、粘り強く取り組む力を育てる。（チャレンジする力・主体性・行動力）　アクション【Action】
３ 多様な人とともに、目標に向けて協力する力を育てる。（協調性・柔軟性・高い倫理観）　チームワーク【Teamwork】
４ 自己を振り返り、自身の希望進路を切り開く力を育てる。（知識・アップデートする力）　リフレクション【Reflection】

この目標を達成するために８点の方策を示し、学校として取り組んだ。以下に取組の成果と課題を報告する。

（標語　「A」十分に達成した。「B」おおむね達成した。「C」達成には至らなかった。「D」達成せず重点的に改善が必要。）

項　目	方　策	取組内容・成果と課題	標語
１ 学習活動	全ての授業において、生徒が自ら積極的に学びに取り組むよう、対話的な授業やICT機器の活用を進め、考え抜く力を育て、知識・技能を効果的に活用できるようにする。	管理職の授業観察ならびに若手教員の研究授業等ですすんで学ぶ生徒の様子が見られる取り組みも確認できたが、これまで通りの教師の知識注入型の授業も多く見られた。 次年度は教科毎に指導方法を研究させるとともに、若手教員の研究授業の振り返りを充実させていく。	C
２ 進路指導	３年間のキャリア指導計画を進路指導部主導で計画し、全教職員で生徒の進路希望実現を図る。	今年度から、１年生全員が夏季休業中に職場体験を行う事が進路指導部、１学年の協力で実施できた。働くことから逆算してどのような学びが必要かを考えさせる、基本形が出来つつある。	B
３ 生活指導	基本的生活習慣を確立させるとともに、生徒の規範意識を向上させ、落ち着いた学習環境を作る。	昨年度49件の特別指導から18件と大きく減らすことができた。生活指導部が中心となり、全教職員が生活指導を行う校内体制は整いつつあるが、全ての教員が一つになっての指導は行えていない。	B
４ 特別活動	生徒会活動や部活動等を充実させ、自発的活動となるよう生徒を導き、チームワークの重要性を認識させるとともに学校への帰属意識を高める。	部活動への加入率が62%となり、部活に所属しない生徒が増えている。色々な部活動を準備し教職員が丁寧な指導を行っているが、生徒のニーズとあった部活動となるように改善が必要。生徒会の指導は生活指導部を中心に行うことができた。	C
５ 健康づくり	人権を尊重し、心身ともに健康な日々を送れるよう、教職員によるサポートの充実を図る。	スクールカウンセラーや養護教諭が丁寧な指導を行うことができた。次年度に向けて教育相談委員会の充実を図る必要がある。	B
６ 募集 広報活動	本校への入学を希望する生徒及び保護者へ、本校の指導方針をしっかりと説明し、十分理解を図ったうえで、本校の志望倍率の増加のためのPR活動の充実を図る。	学校説明会、中学校や塾の訪問は昨年以上に行ったが、本校の志願者が１倍を割ってしまった。学校の広報も大切だが、進学実績などの向上と共に、学校の魅力づくりを積極的に行い、改善を行わなければならない。	D
７ 学校経営	業務の企画立案は担当が行うが、実施に当たっては全ての教職員が協力して取り組む。また、教職員のライフ・ワーク・バランスの充実を図る。	メンタルによる病気休職者は０名であった。また、在勤時間の削減にも取り組むことができた。男性職員の育児休業取得も推進することができた。在勤時間の長い教員がごく一部いるが、指導を継続している。	A
８ 学校経営	法令を遵守し、全体の奉仕者として職務に専念するとともに、経営企画室を含めた全ての教職員が学校経営計画の実現に向け、各業務に効率的に取り組む。	経営企画室と教職員が協力することで、壁の塗り替え工事やトイレの改修、エアコンの交換などを円滑に行うことができた。また、公費会計と生徒会会計を一元に管理することで効率的な予算執行が出来るように工夫できた。法令順守は学期ごとの副校長からの研修を通して、服務事故0を達成できた。	A

2 今年度の重点目標として以下の 5 点を定めて取組むこととした。

1 学校 PR を充実させ、入学者選抜における応募倍率の向上を目指す。
2 教員の授業改善の取り組みを進め、生徒が自ら考え学ぶ授業を実践し学力向上を図る。
3 3 年間を見通したキャリアガイダンスの充実を図り、希望進路を実現し進路指導に対する生徒の満足度を向上させる。
4 進路実現を生徒に意識させた、組織的な取組による規範意識の涵養。
5 学校行事、生徒会活動、部活動等を生徒主体の活動となるよう教員が指導し、学校満足度の向上を目指す。

この目標を達成するため 12 点の具体的方策を示し、学校として取り組んだ。以下に取組の成果と課題を報告する。

項目	方　策	取組内容・成果と課題	標語
1	本校の入学後の指導方針等を多くの中学生に理解いただけるよう、学校広報の充実を図る。具体的には中学 3 年生以外も説明会等に受け入れるとともに、近隣の 5 市、1 区を中心に PR を組織的に行う。	中学 3 年生以外の受け入れも行ったが昨年の学校説明会の来校者数の 2/3（400 人減）となってしまった。塾や中学校訪問も昨年の 1.2 倍程度の数を行ったが結果として受検者の倍率が 1 倍を割る結果となった。PR 方法の改善を行い、次年度は何としても 1 倍を超える受検者を集めなければならない。	D
2	若手教員育成と教員の授業力向上のために相互の授業参観を充実する。年 2 回の授業評価アンケートを生徒に実施し授業満足度を教員にフィードバックし授業改善を進める。模擬試験などの結果を分析し生徒の学力向上に努める。	相互授業参観を実施し、先生方が授業を見学するということは出来た。また、年 2 回の授業評価アンケートを先生方にフィードバックすることもできた。模擬試験の分析会なども行うことができたが、これらの活動が生徒の学力向上に結び付けることができなかった。生徒の学力向上につながる取組を検討することが課題である。	C
3	教育の DX を推進し、ICT タブレット、オンライン教材等の活用を推進するとともに、基礎学力の習得ができるよう授業の充実と補習、補講に加えスキルアップ推進校事業を活用する。	ICT 支援員や ICT リーダーによる研修会を定期的に行うことができた。また、生徒のタブレット活用の向上のためにモバイルバッテリーや電源コードの準備など環境を整えることはできた。またスキルアップ事業での ICT 研修や語学研修も実施は出来たが、受講者が少ないという課題が残った。	C
4	進路指導部が主体となり 3 年間の進路指導を学年と計画し、希望の進路を明確にさせ進路実現を目指す。進路指導満足度を調査し、改善を図る。各学年と進路指導部の連携と円滑な指導を目指す。	1 年生全員が夏休み中に職場体験を行い、働くことから逆算して考えていく流れに変えることができた。また、進路指導満足度は 90%を目標としたが、88%とわずかに及ばなかった。来年度はさらにきめ細かな指導を行い、目標の達成を目指したい。	C
5	進路実現のため日々の生活を律するよう指導するとともに、生徒に寄り添った支援を前提とした生徒指導を実践する。具体的には、登校時、集会での身だしなみ指導、遅刻をさせない指導を工夫するとともに、全職員が共通した指導ができるよう、生活指導部を中心に指導体制を構築する。また、SNS の使い方については繰り返し指導を行う。	進路実現のために日ごろから身だしなみや言葉遣いなどに注意するよう、生活指導部、進路指導部が協力して指導に当たった。また、学年団の協力で遅刻の回数は昨年度の 75%程度に抑えることができた。SNS の使い方についても外部講師を招聘して講演をいただくなど、繰り返しの指導を行うことで大きな問題が起こることなく、終了できた。課題としては全職員が協力して生徒指導に当たる事を目指したが充分とまでは言える状況まで達していないと判断している。	B
6	生徒中心の学校行事が出来るよう、教員が生徒を十分に指導する。具体的には、生徒に計画させ、課題等を教員が指導し、生徒が自ら改善し実践できたと感じられるよう丁寧な指導を行い生徒の満足度を向上させる。	生徒中心の学校行事となるように若手の先生方が中心となりきめ細かな指導をすることができた。学校満足度は目標の85%となったが、まだまだ改善の余地がある。具体的には生徒からの提案をさせた行事や校内の改善などに今年以上に取り組むことが今後必要と考える。	B
7	学校いじめ対策委員会を中心に、担任、養護教諭、SC と連携を密にし、組織的にいじめの未然防止、早期発見、自殺防止に取り組む。	生徒間のトラブルは数件発生したが、生活指導部、養護教諭、管理職や SC などが連携して対応することができた。また、副校長による外部機関との連携が円滑に進んだ。副校長が警察や子ども家庭センターを訪問して情報交換を行うなど迅速な対応が次年度以降もできるように体制を強化する。	A
8	体力テスト、体育祭、マラソン大会などの体育的行事を計画的に実施し、体力や健康に関する意識啓発を図り、体力の向上を目指す。	体育的行事は保健体育科を中心に円滑に実施することができた。残念ながら体育活動中の事故も数件起こってしまった。また、体力や健康に関する意識の変化について、数値的に表すことができず、取組に効果があったかを判断する指針を持てなかった。	C
9	東久留米特別支援学校と協働できる事を検討し、多様な生徒の理解を進めるとともに、両校での交流を深める。	生活指導部を中心に協働活動マネージャーと連携して教職員の交流を行うことができた。MSTeams でのグループの活用や、学校行事の時の教員の交流など、当初の目標とする部分は十分達成された。次年度は一歩進んだ取り組みが必要となる。	A
10	TGG での 1 年生全員への語学研修や都立高校生等海外派遣研修を活用しグローバル人材の育成に努める。	久留米西高校 50 年目で初めて 4 名の生徒を海外に派遣することができた。引率教員も協力的で、円滑に進めることができた。結果報告会も全校集会で行うことができた。TGG の研修も行った	B

		が、グローバル人材の育成は限定的であり、取組を学校全体に広げることが必要である。	
11	教職員間の連携を密にし、計画的に仕事が進められるよう情報共有をするとともに、業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。また、年次有給休暇の計画的な取得を推進する。	男性職員の育児休業取得や、個別の職員の事情による勤務時間の柔軟な対応を取ることができた。また、メンタルによる病気休職者を出すことなく1年を終えることができた。しかし、テレワークの取得については、職員から疑義が出された。次年度にはこの点を改善し、不平不満の出ないような学校運営を行う必要がある。	B
12	公務員としての自覚をもった行動をとり、個人情報紛失、会計事故、体罰等の服務事故を0とする。	副校長による学期ごとの服務事故防止研修などを通して若手教員、新規採用事務職員などを含めて大きな事故が0であった。次年度も、職員同士がお互いに注意しあえるような雰囲気を作り出し、個人情報紛失、会計事故、体罰等の服務事故を0とする。	A

3 令和7年度の数値目標の達成結果

令和7年度の数値目標					令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度
1	入学者選抜 中進対倍率			1.10 以上	0.66	0.88	0.89	1.18
2	入学者選抜 推薦応募倍率			2.50 以上	1.63	2.27	2.15	3.20
3	入学者選抜 一次募集倍率			1.20 以上	0.90	1.18	1.08	1.22
4	ホームページ更新回数			350 回以上	703 回	350 回	347 回	475 回
5	入学して良かったと思う生徒の割合			85%以上	85%	81%	85%	76%
6	進路指導に対する生徒の満足度			90%以上	88%	89%	90%	72%
7	授業に対する生徒の満足度			90%以上	89%	88%	86%	71%
8	進路未決定者			4%未満	1.9%	3.6%	5%	4%
9	1年間の延べ遅刻回数			3500 回以下	3540 回	4743 回	3150 回	2364 回
10	部活動加入率			70%以上	62%	65%	71%	77%
11	学校説明会等参加組数			1200 組以上	804 組	1103 組		
12	資格取得人数	漢字検定	3 級合格	50 名	61 名	41 名		
			準 2 級合格	15 名	4 名	10 名		
		英語検定	準 2 級合格	10 名	5 名	5 名		
			2 級合格	5 名	0 名	2 名		

※網掛けは、令和7年度の目標値に届かなかった項目

令和6年度から久留米西高校の1年間の記録として、研究紀要を冊子として作成している。今年も、教科、分掌、学年、各種委員会、新規採用者などに執筆を頂き140ページの冊子として本校の活動の記録として残すことができた。こちらの学校経営報告ではお伝えしきれない本校の取組が記録されている。